

大阪商工会議所繊維部会、協同組合関西ファッション連合

大阪商工会議所繊維部会、協同組合関西ファッション連合主催で23、24日、大正紡績本社工場見学会が行われた。2日間の見学会に大阪のアパレル関係者など約40人が参



説明する近藤健一取締役営業部長

加した。大正紡績は以前から団体の工場見学会を何度も受け入れていた。大阪商工会議所は4、5年前に企画したが、日程調整などの問題で実現が難しかった。大正紡績を選んだのは理由がある。「日本の紡績が海外シフトや他分野へ進出するなかで、唯一とっていいほど国内で頑張っており、近藤健一部長も業界では知られた人であることから注目していた」(大阪商工会議所)のだという。

参加者は大阪商工会議所からバスで大正紡績に移動、同社本社工場に到着後、近藤取締役営業部長から概要説明を受けた。3班に分かれ同社職員による案内説明で工場施設を見学した。

大阪のアパレルなど40人参加

大正紡績は、アパレルしたほか、メイド・イン

しき、近藤部長のクラボウ時代や18年間過ごした諸外国での経験談、オーガニックウールやバナナの木繊維、モンゴルカシミヤの状況などを解説

大正紡績本社工場は紡績設備1万6000錠。1200種類にもなる様々な特殊な糸を開発・生産している。毎年数億円をかけて設備投資を実施し、大手紡績にもない

料を均一に混ぜ、葉いみ種などをたたき落とす混打綿、繊維を引き揃えるカーディング、短繊維をカットするコーミング、糸の均整度を高める練糸、撚りをかけて粗糸にする粗紡、粗糸を引き伸ばし撚りをかけて糸にする精紡、精紡でできた

など顧客と最終製品について話し合いをした上で、オーガニックコットンを中心とした糸作りを行っている。近藤部長によると、世界最大のオーガニックコットンの生産地、枯葉剤の恐ろ

・ジャパンのものづくり10カ条として、「素材を徹底して選ぶ」「ありそ

ような最新鋭の機械を導入している。見学は世界各国から集まる綿花の倉庫から始まり、最初の工程である原

糸をチーズに巻き上げる巻糸、チーズに巻き取った糸のチェックなど、オーガニックの糸ができるまで一連の紡績工程を見

て回った。見学を終えた参加者は本社内の「夢工房」に入り、実際のオーガニックの最終製品の説明を受け、商品を見て手に触りながら、近藤部長の説明に熱心に耳を傾けてい

た。見学後、参加者からは「ヒントをもらった」などの意見もあった。大正紡績の顧客は9割が東京。最終的には欧米の高級ブランドへ流れているケースが多い。今回の工場見学をきっかけに、大阪のアパレルからの支持拡大も期待できそう

大正紡績本社工場見学会



大正紡績本社工場内